



独立行政法人 国立病院機構
村山医療センター

Vol.32

平成 28 年 1 月発行

発行者 院長 朝妻 孝仁

医療連携通信

〒208-0011 東京都武蔵村山市学園 2-37-1 TEL 042-561-1221 FAX 042-564-2210 <http://www.murayama-hosp.jp/>



明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

村山医療センター 医師一同

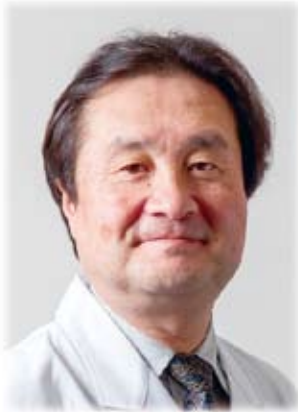
目次

年頭のご挨拶	院長 朝妻 孝仁	2
新年のご挨拶	地域医療連携室長 植村 修	3
北多摩西部医療圏 地域リハビリテーション支援センター事業		3
着任のご挨拶	臨床研究部長 吉原 愛雄	5
一般外科開診のお知らせ		5
外来診療担当医師表		6



謹賀新年

年 頭 の ご 挨拶



院長 朝妻 孝仁

皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年度、当院の目標として 1) 念願の病棟建て替えを実現する。2) 内科および外科の診療体制を強化する。3) 医療サービスを向上する。4) 医療連携をさらに強化する。の4点を挙げさせていただきました。

昨年1年間を振り返ってみますと、まず病棟建て替えにつきましては、昨年3月に国立病院機構本部から、立て替え計画が承認され、早速、設計に取りかかりました。現在まで基本設計が終了し、年初より実施設計に入る予定です。当院が骨・運動器疾患に特化した病院であることを踏まえ、車イスを利用される患者さんにも快適に過ごして頂けるよう、従来より病室を広めにし、廊下も十分な幅を取るよう工夫しました。病床数303床は変わりませんが、現在、東と西に分かれている2つの病棟を1つに集約し、6階建てにする計画です。平成29年9月完成を目指しています。工事中は患者の皆様、近隣の皆様にはご迷惑をおかけするかと思いますが、何卒よろしくご理解のほどお願い申し上げます。

次に内科および外科の診療体制強化ですが、昨今の医師不足、医師偏在の影響で、去年は新たな常勤医師を確保することができませんでした。昨年3月には、外科・一般消化器外科医として長年にわたり当院に貢献してきた瀬川副院長が定年退職したため、外科の診療を休診せざるを得ない状況になっていました。大変ご迷惑、ご不便をおかけしてきましたが、本年1月より非常勤医師による診療を週1回、火曜日に再開する運びになりました。今秋には常勤医師を招聘し、本格的に外科診療を行っていく予定です。

第三の医療サービスの向上ですが、患者の皆様から病院の建物や設備が古い、というご意見を頂きますが、前に述べましたように病棟の建替えに続いて、外来棟の建て替えも近い将来、視野に入れて努力をしていきたいと思っております。また、本年3月1日より、電子カルテの運用を開始する予定です。これにより、より speedy, smooth に診療、事務手続きが行われることが期待されます。

第四の医療連携のさらなる強化ですが、去年は当院主催の医療連携を目的とした講演会、セミナーを2回開催しました。地域の病院、診療所の多くの皆様にご参加いただきこの場を借りて心より御礼申し上げます。本年も同様の企画を考えています。

2年前よりホームページ充実に努めてまいりましたが、頻繁に更新を行い、最新の情報を提供させて頂いています。御陰様で3年前に月、約700件程度であったアクセス数が現在、年間約2万件に達しています。医師からのみならず、多職種からの情報を掲載していますので、是非ご覧いただければ幸いです。

本年も“患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。”という当院の理念に基づき、職員一同頑張っていきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

地域医療連携室長 植村 修



新年明けましておめでとうございます。夏らしい夏でもなく、冬らしい冬もない昨年からの気候は本年もそのまま続いています。三日は日本晴れと清々しい年明けとなりました。各連携医療機関の皆様方におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。

本年は消費増税や平成 28 年度の診療報酬改定などもあり、医療機関にとっては厳しい年となりそうな状況です。リハビリテーションの分野に目を向けると、回復期リハビリテーション病棟の差別化と地域包括ケア構想の更なる充実とが、昨年末に行われた中央社会保険医療協議会でも強く意見されています。そのなかでは、今までは無条件で一日あたり 9 単位のリハビリテーション料を算定できていた回復期リハビリテーションが、その医療機関の質（機能回復の程度）に応じて条件付きで認められるべきであるとされています。そうすると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 を算定している医療機関は体制強化加算も非算定となる可能性があり、重大な経営問題となるでしょう。

リハビリテーションの質的評価としては、日常生活評価の国際基準である FIM (Functional Independence Measure; 機能的自立度評価法) という評価方法の点数の変化でみるのが一般的です。北多摩西部二次医療圏のリハビリテーション支援センターの指定を受けている当院は、比較的重症な患者を受け入れているにもかかわらず、全国平均よりも FIM 得点を高く上げることができていることから、仮に上記のような基準はむしろ歓迎できるものと考えております。今後もこの強みを最大限に生かして、積極的に重症の患者さんも受け入れ、脳卒中に限らないリハビリテーション地域医療連携に邁進する所存です。

最後になりましたが、本年もぜひともよろしくお願い致します。

北多摩西部医療圏

地域リハビリテーション支援センター事業 地域支援講座報告

1. 簡単にできる嚥下障害への対応～嚥下とポジショニング～

平成27年11月11日(水)開催

言語聴覚士 仲本大樹

今回の地域支援講座では多くの方に来て頂きました。この講座では嚥下やポジショニングについて基礎的な知識から実際に食事をする時に使える知識などを幅広く知る事が出来ます。医師、看護師、作業療法士、言語聴覚士の各専門家がそれぞれの分野から食事について説明をするので非常に分かり易い内容となっております。アイスマッサージなど実際に臨床で使えるものの実技もあり、今回参加して頂いた方からも大変ご好評でした。もし興味がございましたら是非ご参加ください。



2. 在宅酸素療法を受ける患者への支援

平成27年11月25日(水)開催
地域医療連携室 有田絵理子



平成27年11月25日、国立病院機構東京病院 慢性呼吸器疾患看護認定看護師の秋田馨先生に講義をしていただきました。参加者は、病院・訪問看護ステーション・老人介護保健施設の看護師・理学療法士・作業療法士の29名でした。講義は慢性呼吸不全の基礎知識、HOT患者が安心して旅行するための方法、災害時の対応を中心にとてもわかりやすい内容で多くの学びがありました。また、酸素機器業者による酸素濃縮器

や携帯用酸素濃縮器の展示と紹介があり、実際に手に取り動きやすさなどが体感できました。

参加者から「患者指導の再確認ができた」「具体的に災害時の対応が理解できた」などの感想があり、満足度の高い研修でした。

今後は在宅酸素療法患者の増加が予測されます。今回の研修で基礎知識が広がり、適切な指導と安心した療養環境の提供につながると思います。

3. 移乗動作介助方法 –楽な介助のコツと原理–

平成27年12月 2日(水)開催
理学療法士 境 寛人

当日は当院理学療法室で18時30分から開始。参加者は理学療法士13名、他職種24名でグループを作成し、移乗動作の介助方法についての説明を実施。移乗動作の基本、移乗介助を楽にする補助具の紹介、移乗動作の介助方法の実技指導を軸に40分程の講義を行った。今回は介助時の重心移動の重要性について説明を行い、他職種に対して動作指導、移乗時におけるリスク管理について、実技演習を通して伝達した。



実技演習終了後も他施設、他職種の人達と質疑応答

が続き、臨床での悩みを聞く事が出来、お互いのスキルアップが可能となり、交流を深めることでスキルアップにつながり、有意義な施設間、地域交流が行えたと感じた。

来年度以降も講義および実技演習の質を高めこのプログラムを継続するつもりですので、多数の参加をリハビリ科一同お待ちしております。

【地域リハビリテーション支援センター事業の今後の予定】

患者家族支援講座 「家庭でできるお口のリハビリ」

平成28年1月20日(水) 13:30～ 於：村山医療センター厚生棟会議室

着 任 の ご 挨拶



臨床研究部長 吉原 愛雄 (よしはら やすお)

平成28年1月1日付で臨床研究部長を拝命いたしました吉原愛雄と申します。防衛医科大学校整形外科より参りました。これまで股関節の臨床と若手医師の育成に携わって参りましたが、これからは診療に加えて臨床研究のマネージメントを担当させていただきます。村山医療センターは全国でも有数の骨・運動器疾患の中核施設と伺っております。伝統ある村山医療センターのさらなる発展に少しでも貢献できますよう微力ながら努力していく所存です。不慣れな点が多々あると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

一般外科 開診のお知らせ

平成28年1月5日より一般外科を開診いたしました。

一般外科につきましては、平成27年4月から休診とさせていただき、患者さんにご心配とご不便をおかけしておりましたが、平成28年1月より開診いたしましたのでお知らせいたします。

なお、診療日や受付時間、担当医師等は下記のとおりです。

診療日 毎週 **火曜日** **受付時間** 8時30分～11時00分

担当医師 大石 英人 (おおいし ひでと)

東京女子医科大学 八千代医療センター 講師
外科診療部 消化器外科医

日本外科学会 専門医、指導医
日本腹部救急医学会 評議員
日本救急医学会 専門医
日本内視鏡外科学会 技術認定指導医、評議員
日本消化器外科学会 認定医
日本在宅医療学会 評議員
日本がん治療認定医機構 暫定教育医
日本静脈経腸栄養学会 認定医、指導医、代議員

お問い合わせ先

電話 042-561-1221 (内線437) 企画課医事まで

【表紙写真について】~~~~~

写真左から:窪田先生(整)、平賀先生(整)、竹光外来部長(整)、許斐先生(整)、宮本先生(歯)、大石先生(外)、中村先生(整)、金子先生(整)、谷戸統括診療部長(整)、小見山先生(整)、吉原臨床研究部長(整)、朝妻院長(整)、大柁先生(整)、小澤先生(麻)、岡田先生(内)、藤吉先生(整)、片寄先生(リウ)、倉片先生(リウ)、渡部先生(リウ)、八木先生(整)

※ 診療業務のため欠席された先生:笹崎先生(リウ)、植村先生(リウ)、宇内先生(リウ)

診療科名 (内):内科、(外):外科、(整):整形外科、(リウ):リウマチ科、(リハ):リハビリテーション科
(麻):麻酔科、(歯):歯科

外来診療担当医師

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター

平成28年1月1日現在

■ 一般外来

※受付時間 (初診：8時30分～11時まで)
再診：8時30分～12時まで)

診療科等		月	火	水	木	金	備考	
内科		片寄	岡田	片寄	岡田	岡田		
外科			大石					
整形外科	再診	脊椎	○朝妻 ○竹光	○谷戸 ○藤吉	○○金子 ○八木	○許斐	△○小見山 ○大柵	◎脊髄損傷 ○側弯 △手・上肢 脊椎・脊髄 (頸椎・胸椎・腰椎)
		関節	中村		窪田	吉原	笹崎	股・膝関節・下肢
		一般		平賀				
	初診	交替制						
リハビリテーション科		渡部	植村	倉片		交替制(※) (第4・5金は休診)	※第1金…倉片 第2金…植村 第3金…渡部	
歯科		宮本	宮本	宮本	宮本	宮本	予約制	

■ 専門外来

※受付時間 13時～

診療科等		月	火	水	木	金	備考
内科リウマチ					片寄 (13:00～)		
側弯		齋藤 (第4週のみ)		八木 (13:30-15時)	金子 (第2・4週14-17時)	八木 (第2・4週15-17時)	予約制
装具外来 (リハ棟)		植村/倉片/ 渡部					予約制
検査	超音波	頸部・甲状腺/腹部・骨盤					予約制
		下肢(病棟)	下肢(外来)	下肢(外来)	下肢(外来)	下肢(病棟)	予約制
	消化管造影 検査						予約制

※循環器科、泌尿器科、皮膚科、精神科については、一般外来を行っておりません。

受診予約のご案内

○地域医療連携枠を利用した予約方法(医療機関からの患者紹介)

村山医療センターホームページ(<http://www.murayama-hosp.jp/>)より、
「医療関係者の方へ」→「紹介患者さん予約方法」をご参照下さい。

※不明な点等は、地域医療連携室(042-561-2535)へお問い合わせ下さい。

○一般の患者さんの初診予約方法

①村山医療センターホームページ(<http://www.murayama-hosp.jp/>)より、
「オンライン初診予約」がご利用いただけます。

②電話予約(受付時間 平日 13時から17時)

初診予約電話番号 042-561-1698(直通)・042-561-0965(直通)

※不明な点等は、②の初診予約電話番号にお問い合わせ下さい。